

令和2年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 石狩地区
- 2 事例報告学校名 : 千歳市立北栄小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長 森 正彦
- 4 キーワード : 地域の教育力を生かすコミュニティ・スクールの実践

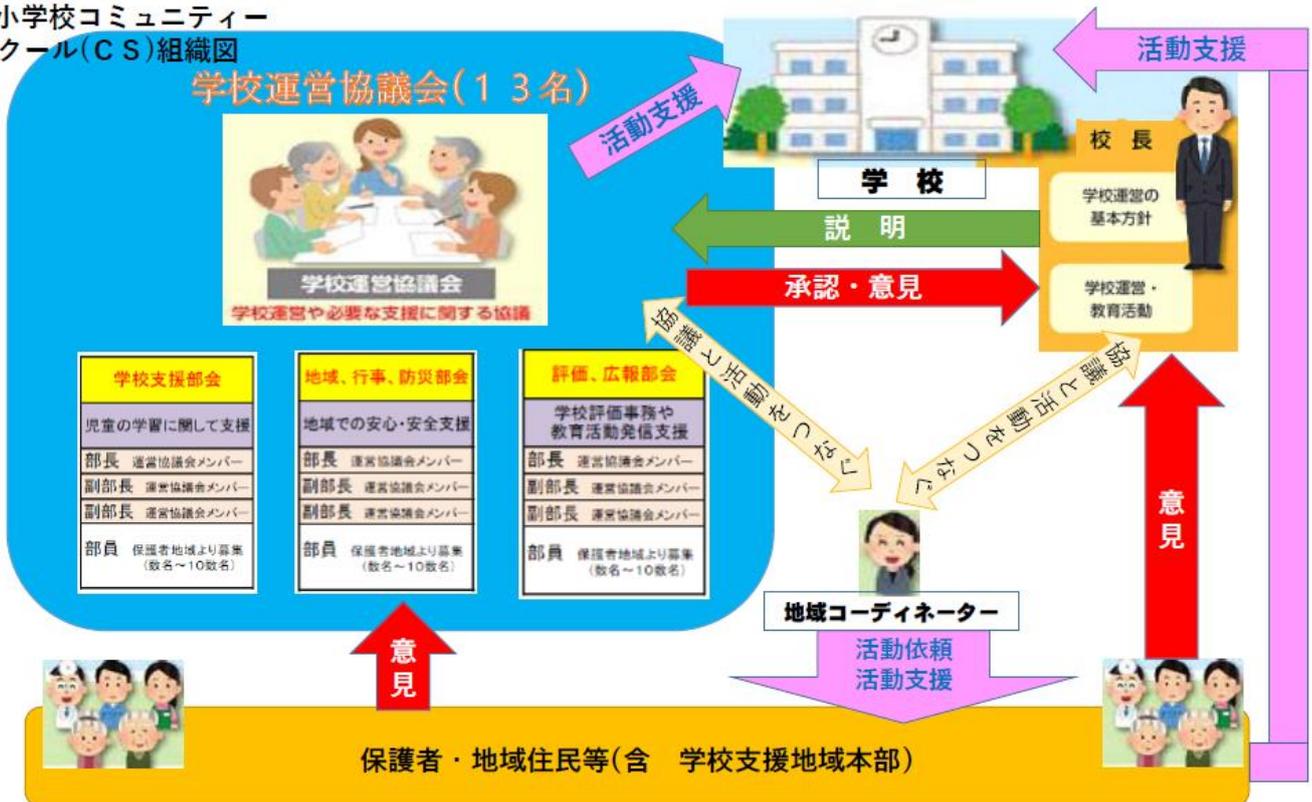
I はじめに

本校は千歳市中心部に位置する全校児童267人の学校である。平成30年度から学校運営協議会開設に向けて、学校関係者評価委員会の中で、学校運営協議会についての動きについて確認してきた。昨年度の5月30日に第1回の運営協議会を開催し組織を発足させた。第2回からは3つの委員会組織に分ける中で学校に対してできることについて熟議を深め、活動について話し合った。様々な学校の取り組みに参加することで活動を進めることを確認した。そして今年度、コロナ禍での休校を経ながら、実質の活動をスタートした。また、今年度PTA活動を活動ごとに分担する取り組みとしたため共同で活動することとなった。

II 実践に入るまで（令和元年度）

5月に第1回の学校運営協議会を開催し、組織作りを行った。委員は、旧学校評議員、町内会、民生委員、児童館職員、PTA役員、関係機関として商店街振興組合理事長に学校関係者を加えたメンバーで構成した。学校経営方針の承認に引き続き、コミュニティ・スクールについての考え方や今後の活動計画と共に、本校の学校運営協議会の組織について審議した。組織は、下図（令和2年度整備した組織図）の通り3つの部会で構成することとした。学校支援部会では、学校の教育活動に対する支援を行い、地域、行事、防災部会では地域での安心・安全、防災など、地域での安心安全に関わる支援を行う。さらに、評価・広報部会では、学校評価事務や教育活動の発信・情宣活動を行うこととした。第2回目学校経営方針に基づく熟議をすることで、学校に対してできること、支援したいことなどを話し合った。学校支援部会においては裁縫（ミシン）や調理実習、書写、水泳等授業教科指導の支援に加え学校図書館支援があげられた。地域・行事防災部会では、交通安全や防災などの見守り活動、巡視活動、地域行事関連の活動があげられた。また、評価・広報部会で

北栄小学校コミュニティ・スクール(CS)組織図



は学校評価集計、会報の作成やホームページでの情宣活動があげられた。その中で大人への啓発やサポートとして挨拶や食事のマナーなど指導や子育てについてサポートできないかという意見も出された。また、学校に協力する「サポート隊」を募ることとし、案内状を発送した。

これらを基に、最初の活動として「児童見守りの日」を設定し、登下校時に自宅近所の交差点を中心とした見守りを行うこととし、文書やHPで案内した。ところが新型コロナウイルス感染症による休校となったため実現はできなかった。

Ⅲ 実践の内容（令和2年度）

休校明けの6月下旬に第1回の学校運営協議会を開催。この段階で「サポート隊」は学校のある町内会を中心に31人登録された。今年度の活動について熟議を経て、活動の合い言葉「密にならず、誰でもできることから始めよう」に基づいて、昨年実現間近で中止となった「見度見守りの日」から活動を始めることとなった。

1. 児童見守りの日 ～地域、行事、防災部会～

9月より毎月1日と15日に実施することとした。「CS通信」の発行、回覧板への記載など各家庭に呼びかけて活動を開始した。この活動はPTAの「居住区見守り」と共に実施した。

2. ふれあい農園作業 ～地域、行事、防災部会～

空いている教材園を活用して地域と子どもと一緒に行動する「ふれあい農園」の取り組みを始めた。教頭を中心として教職員であらかじめ畑おこし等の準備をした。全校児童、地域に呼びかけ7月18



日の第1回の活動で地域と児童がともに活動を行った。その後、地域の方が畑の世話に訪れながら8月29日の収穫と10月17日の畑納めと共に汗を流す充実した活動となった。

3. 家庭科実習学習支援（ミシン） ～学校支援部会～

今年度最初の学習支援、6年生の家庭科裁縫実習におけるミシンについて支援を行った。家庭科室にミシンを8台設置し、交代でミシンを使用した作業を行った。ボランティアはサポート隊の他に、市の学校支援地域本部地



域コーディネーターの協力を得ながら依頼した。多くの方々が支援に参加していただき、作品作りの効果的な支援を行っていただいた。今後書写、スケート学習の支援を予定している。

Ⅳ おわりに

今後、評価・情宣部によるCS通信の配布など活動を行っていく。そのほかにも放課後学習を含めた学習支援や、保護者へのサポートなど横のつながりを効果的に進めていきたい。今年度はコロナ禍によって地域行事がほとんど中止になったが、学校から地域への働きかけも行っていきたいと考えている。